

大分県教育庁埋蔵文化財センター一年報 2

2016

大分県教育庁埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、平成 26 年度に大分県教育庁埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財に関する事業内容及び、石造文化財の分布調査や普及・啓発活動の概要の他、大分県内における埋蔵文化財保護行政の現状についてまとめた年報である。
- 2 第 3 章には、収蔵資料の集成・研究報告を収載している。
- 3 出土遺物は大分県教育庁埋蔵文化財センター（大分市中判田）で保管している。
- 4 本書の執筆は、第 2 章を越智淳平（大分県教育庁文化課）、第 3 章（1）を坂本嘉弘（大分県教育庁埋蔵文化財センター）が担当し、それ以外を五十川育子（大分県教育庁埋蔵文化財センター）が担当した。
- 5 本書の編集は江田豊（大分県教育庁埋蔵文化財センター）と五十川が行った。

目 次

例 言

第 1 章 平成 26 年度 大分県教育庁埋蔵文化財センターの事業実績

- (1) 発掘調査の推進 1
- (2) 整理・記録報告の推進（報告書の刊行） 2
- (3) 公開の推進 3

第 2 章 平成 26 年度の大分県埋蔵文化財保護行政の現状 10

- (1) 発掘調査の動向
- (2) 埋蔵文化財の普及・啓発及び文化財指定

第 3 章 収蔵資料集成・研究報告

- (1) 中世大友府内町遺跡発掘調査報告 一補遺 2 一 11
- (2) 中世大友府内町跡第 29 次調査出土獅子形銅製品について 13

第1章 平成26年度 大分県教育庁埋蔵文化財センターの事業実績

(1) 発掘調査の推進

平成26年度より、機構改革の一環として、県関係の一般事業と大型事業とが県事業として集約された。県事業は5件で、国土交通省・NEXCO関係の受託事業は0件であった。また、県関係の開発に伴う立会・試掘・確認調査が47件、県事業に関する分布調査が517ヶ所、県農林業関係分布調査が118ヶ所、大分県内石造物分布・実測調査が1637件であった。

A 本調査 (5遺跡)

第1表 県事業

	事業主	事業名	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	担当者	主な時代	主な遺構・遺物
1	県土地開発公社	玖珠工業団地造成	四日市遺跡13次	玖珠町	平成26年5月13日 ～平成27年1月19日	8,494㎡	後藤一重	弥生・古墳	住居跡・石棺・古墳
2	大分土木事務所	庄の原佐野線	旧万寿寺跡8・9次	大分市	平成26年5月19日 ～平成27年2月9日	1,666㎡	吉田 寛 宮内克己	中世	溝・土坑・井戸跡
3	政策企画課	県立芸術文化短期大学改修	上野遺跡群	大分市	平成26年8月4日 ～8月20日	254.4㎡	原田昭一	古代	柱穴
4	豊後大野土木事務所	三重新殿線	原田第2遺跡	豊 後大野市	平成26年9月3日 ～10月2日	181.5㎡	綿貫俊一	旧石器	ナイフ形石器等
5	施設整備課	新館変電棟新設工事	府内城・城下町	大分市	平成27年1月14日 ～2月24日	265.7㎡	小林昭彦	近世	土坑、陶磁器

B 分布・試掘・確認調査 (2319件)

第2表 分布・試掘・確認調査

	区分	件数	期間	担当者	備考
1	県事業・県立学校・国関係等立会・試掘・確認調査	47件	平成26年4月～平成27年3月	後藤一重 原田昭一 松本康弘 吉田 寛 小林昭彦 宮内克己	
2	一般事業関係等分布調査	517ヶ所	平成27年3月2日～3月10日	後藤一重 原田昭一 松本康弘 吉田 寛 小林昭彦 宮内克己	
3	県農林業関係分布調査	118ヶ所	平成26年10月・12月	松本康弘 他	
4	大分県内古代・中世石造物分布調査	1637件	平成26年4月～平成27年3月	小柳和宏 原田昭一 他	現地確認

(2) 整理・記録報告の推進（報告書の刊行）

発掘調査にかかる遺物の整理作業を継続して行った。また、発掘調査報告書は7冊を刊行した。この他、印刷物として平成26年度の国庫補助事業にかかる概報1冊、年間の事業に関するまとめとして年報1冊を刊行した。年報は、これまで『大分県埋蔵文化財年報』として大分県全域の埋蔵文化財保護行政をまとめた内容を掲載しており、平成4年度より22冊を数えたが、平成26年度からは新たに『大分県教育庁埋蔵文化財センター年報』として埋蔵文化財センターの事業についての概要を掲載している。さらに、近年の発掘調査成果を盛り込んだ一般向け概説書として『新しい大分の考古学 豊の国考古学ライブラリー①』を刊行した。

第3表 平成26年度中に刊行した印刷物

	報告書番号	遺跡名	副題等	担当者	総頁数
1	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第79集	嶋ノ町遺跡1・2次、 香紫庵遺跡、 灰床遺跡、 池ノ下・能元遺跡、 今成近世墓、 虚空蔵寺遺跡	東九州自動車道(県境～宇佐間) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書(2)	小柳和宏 江田 豊 原田昭一 松本康弘 横澤 慈	A4版 272頁
2	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第80集	長谷山際遺跡、 鶴ヶ池遺跡、 大久保遺跡、 ハカノ下遺跡	東九州自動車道(佐伯～県境間) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書(3)	小柳和宏 原田昭一 越智淳平	A4版 102頁
3	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第81集	定留鬼塚遺跡	臨港道路中津港線建設工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書	小柳和宏 綿貫俊一 五十川育子	A4版 96頁
4	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第82集	若旗遺跡	県道鍋島植野線道路改良工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書	松本康弘	A4版 24頁
5	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第83集	中世大友府内町跡 第96・99次調査区	大分駅付近連続立体交差事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書(10)	後藤一重 吉田 寛	A4版 282頁
6	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第84集	竜王畑遺跡	大分県立芸術文化短期大学施設整備 工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	原田昭一 小林昭彦 高橋信武	A4版 120頁
7	大分県教育庁埋蔵文化財センター 調査報告書第85集	大分県内古代中世石造物	大分中世石造遺物 第3集 分布図・地名表編(下)	後藤一重 小柳和宏 原田昭一 綿貫俊一 松本康弘 坂本嘉弘 高橋信武 宮内克己	A4版 160頁
8	大分県内遺跡発掘調査概報18			原田昭一 松本康弘	A4版 18頁
9	大分県教育庁埋蔵文化財センター 年報1			江田 豊 綿貫俊一	A4版 18頁
10	新しい大分の考古学 豊の国考古学ライブラリー①			後藤一重 小柳和宏 江田 豊 他	A5版 80頁

(3) 公開の推進

収蔵資料については、埋蔵文化財センターでの常設展示のほか、年一回の企画展において広く一般に公開している。また、小学校への出前授業、中学生の職業体験、歴史学習体験キットの活用などを通じて学校との連携を図り、併せて一般県民を対象とした考古学講座や発掘調査現場の現地説明会を開催した。

A 展示

企画展は、大分県立先哲史料館展示室において実施した。平成26年度は埋蔵文化財センター設立10周年の節目にあたることから、「大分の歴史を掘り続けて10年 埋蔵文化財センターの歩み」と題し、この間に調査された約150ヶ所の調査において特に重要と考えられる遺跡・遺物を選びすぐって展示した。また、関連イベントとして、開幕直前の11月に「地面の下をのぞいてみれば歴史が見える」、会期中の1月に「企画展を掘り下げる－10年目の新知見－」という2回の企画展関連講座を行った。さらに、期間中6回の職員による展示解説を行い、総入場者数は4,180人を数えた。

ミニ企画展は、県庁別館と社会教育総合センターにおいて「いにしえ人の知恵と技術で生み出された道具たち」を、県立図書館において「器(うつわ)の移り変わり」を実施した。

第4表 平成26年度開催の展示一覧

題名	企画展		ミニ企画展					
	「大分の歴史を掘り続けて10年 埋蔵文化財センターの歩み」		「いにしえ人の知恵と技術で生み出された道具たち」		「器(うつわ)の移り変わり」			
場所	県立先哲史料館		県庁別館	社会教育総合センター	県立図書館			
4月			第1回 これは何？	石で作られた道具たち I 旧石器時代の石器	第1回 煮る、貯える！ 様々な文様が施された縄文土器			
5月								
6月						第2回 石で作られた道具たち I 旧石器時代の石器	石で作られた道具たち II 縄文時代の石器	第2回 用途によって使い分けられた 弥生土器
7月								
8月						第3回 石で作られた道具たち II 縄文時代の石器	弥生時代の農具と武器	第3回 現代の陶器の源流となる須恵器
9月								
10月	第4回 弥生時代の農具と武器	古墳時代の副葬品 I 金属器と装飾品	第4回 輸入された中国製陶磁器の逸品					
11月								
12月	平成26年12月5日 ～平成27年2月1日	第5回 古墳時代の副葬品 I 金属器と装飾品	古墳時代の副葬品 II 様々なスタイルの須恵器	第5回 「豊後府内」で用いられた器たち				
1月								
2月		第6回 古墳時代の副葬品 II 様々なスタイルの須恵器	中世の生活に関連した 土製品・木器・金属器	第6回 江戸時代の城下町で使われた 様々な器				
3月								

平成二六年年度
企画展 大分の歴史を掘り続けて10年
埋蔵文化財センターの歩み

▼新石器時代の遺跡 須恵遺跡
日本列島に知られたままのものは、埋蔵品をめぐって、われわれが約1万年を遡るまでには到達していません。この須恵遺跡は、約7,000年前の西日本には珍らしい、土器や石器の豊富な出土品を有する重要な遺跡です。須恵遺跡は、約7,000年前の西日本には珍らしい、土器や石器の豊富な出土品を有する重要な遺跡です。須恵遺跡は、約7,000年前の西日本には珍らしい、土器や石器の豊富な出土品を有する重要な遺跡です。



平成一六年十二月五日(金)～平成一七年二月一日(日)

休 日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、その翌日が休館日)
年末年始 12月28日(日)～1月5日(月)

開館時間 9:00～17:00
会 場 大分県立生涯学習センター(大分県立図書館1階)
大分市千子野町14番1号
主 催 大分県教育庁埋蔵文化財センター
展示解説 12月7日(日)、12月14日(日)、12月21日(日)
1月10日(土)、1月25日(日)、2月1日(日)
上記日の11:00と14:00から行います

大分県教育庁埋蔵文化財センター



企画展(展示の様子)



企画展(展示解説)



ミニ企画展 県庁別館

第3回「石で作られた道具たちⅡ」

企画展パンフレット

社会教育センター ミニ企画展 解説資料No.4 いにしえ人の生活と技術でみられた道具たち

古墳の副葬品Ⅱ 須恵器

「須恵器」って、何？
古墳時代は、西暦250年前後～591年までの約340年間で、大和にあった政権を中心として、各地の豪族が巨大な権威の象徴として築いた時代です。この時代の中心にある5世紀の中葉、朝鮮半島南部から伝わった陶器土器(須恵器)があります。須恵器はその後、平安時代まで生産が続けられています。平安時代には「須恵」と書いて「すゑもの(すゑのつもの)」と読まれていました。古墳時代の須恵器を指した言葉のある古墳(大和に「須恵」という地名が残っている)、古墳時代もそう呼ばれていたのでしょうか。こうした須恵器は、墓り(須恵)を用いた100以上の高麗で高麗陶器とされた品に特徴があり、日本で初めて高麗陶器が須恵器といふことと、高麗の須恵器は、良質な粘土と、燃料となる樹木の豊富な場所が選ばれました。

大分県内における須恵器の生産地は中津市、大分市、宇佐市で知られています。中でも中津市の野依-伊藤田須恵器群が有名です。須恵器は住居と考えられる竪穴建物でも確認されますが、量的には圧倒的に古墳や副葬品からの出土が多いのです。今回は須恵器と須恵器から出土した須恵器を紹介いたします。

1 草場原遺跡(須恵器) 草場原遺跡(須恵器)
草場原遺跡は、中津(バイパス)の建設に先立ち調査で見つかりました。この遺跡は大分県北部の中津市伊藤田に所在し、中津平野に向けて緩く広がる丘陵の斜面に遺構されていました。この草場原遺跡は南辺にある高野を占めて多くの須恵器からなる野依-伊藤田須恵器群に含まれており、九州における代表的な須恵器生産地の一つです。

調査当時の草場原遺跡は長さ11.6m、最大幅1.4m、天井部は失われていたが最大で0.5mの深さがありました。掘削面をみると緩やかに立ち上っており、案内側の掘削面は傾斜に包み込んであり、土壌が硬く、土器を掘ると案内側の壁は傾斜の傾斜で、3層階級土で構成されていることがわかりました。案内や、外の反土と呼ばれる場所には製品に仕上がった須恵器の破片や、輪削した須恵器などが残っていました。





ミニ企画展 解説資料

第5回・第6回「古墳時代の副葬品Ⅱ」



ミニ企画展 社会教育総合センター

第6回「中世の生活に関連した土製品・木器・金属器」



ミニ企画展 県立図書館

第5回「豊後府内で用いられた器たち」

B 出前授業・講座

出前授業は6校で実施し、受講児童数は延べ275人であった。出前授業は、概ね二時限分の授業時間を使い、前半で旧石器時代や縄文時代・弥生時代の生活の違いやそれぞれの地域に残る遺跡について学び、後半で石器・縄文土器・弥生土器・須恵器に実際に触れる体験の他、黒曜石を使って紙を切る体験や縄文土器の模様を粘土板に再現する体験などいくつかの体験学習を学校ごとに設定している。

考古学講座は、発掘調査現場での現地説明会として、大分市の旧万寿寺跡8次・9次調査区と玖珠町の四日市遺跡13次調査区で実施した。併せて170名の来場者を数えた。また、平成26年度は小学生の親子を主な対象としたバックヤードツアーを初めて企画し、8月と2月の2回実施した。バックヤードツアーでは、常設展示の見学、報告書作成作業に関わる作業室や遺物の収蔵棟見学に加えて、整理作業体験として遺物の接合作業やクイズ大会などを行い、参加者からの好評を得た。

第5表 出前授業・講座一覧

出前授業

	学校名	日付	講師	利用学年	児童数
1	杵築市立護江小学校	平成26年5月1日	原田昭一（補助：松村洋一、綿貫俊一、五十川育子）	6年生(1クラス)	10名
2	臼杵市立臼杵小学校	平成26年5月2日	松本康弘（補助：古殿鈴代）	6年生(2クラス)	54名
3	佐伯市立上野小学校	平成26年5月15日	綿貫俊一（補助：五十川育子）	6年生(1クラス)	34名
4	大分市立戸次小学校	平成26年5月20日	江田豊、綿貫俊一	6年生(3クラス)	92名
5	大分市立中島小学校	平成27年1月20日	吉田寛	5・6年生(クラブ活動)	20名
6	別府市立亀川小学校	平成27年2月26日	松本康弘（補助：五十川育子）	6年生(2クラス)	65名

考古学講座・企画展関連講座・バックヤードツアー

	講座名	日付	講師	開催場所	受講者数
1	バックヤードツアー「埋蔵文化財センターってどんなところ？」 ～バックヤードツアーと歴史体験～	平成26年8月23日	センター職員	埋蔵文化財センター	35名 (11家族)
2	考古学講座 旧万寿寺跡第8次・9次調査発掘調査現地説明会	平成26年10月4日	吉田寛 宮内克己	大分市元町	120名
3	考古学講座 四日市遺跡第13次調査発掘調査現地説明会	平成26年11月9日	松本康弘	玖珠町四日市	50名
4	企画展関連講座「地面の下をのぞいてみれば歴史が見える」	平成26年11月22日	後藤一重 小柳和宏 江田豊 小林昭彦	県立図書館	30名
5	考古学講座 企画展内覧会(展示説明会)	平成26年12月4日	センター職員	県立先哲史料館	30名
6	企画展関連講座「企画展を掘り下げるー10年目の新知見ー」	平成27年1月17日	綿貫俊一 原田昭一 松本康弘	県立図書館	28名
7	バックヤードツアー「発見・探検！埋蔵文化財センター」 ～バックヤードツアーと歴史体験～	平成27年2月8日	センター職員	埋蔵文化財センター	25名

C 研修・その他

考古資料を用いた児童・生徒向けの体験学習や教員研修を実施しており、時期によっては発掘体験を研修項目に追加している。また、地域の学校である判田小学校とは、施設見学・遺物の洗浄体験や判田地区の史跡をめぐるウォークラリーの実施など、連携して歴史学習・地域学習を行っている。

第6表 研修・見学一覧

		学校名 / 事業名	日付 (期間)	受入数
1	地域連携 (歴史体験学習)	大分市立判田小学校	平成26年6月5日～6月6日 (2日間)	6年生134名
2	発掘現場体験	大分市立上野丘中学校	平成26年6月18日	2年生4名
3	職業体験学習	大分市立城東中学校	平成26年6月25日～6月27日 (3日間)	2年生4名
4	発掘現場体験	大分市立城東中学校	平成26年6月26日	2年生4名
5	発掘現場体験	大分市立大分西中学校	平成26年7月3日	2年生4名
6	職業体験学習	大分県立豊府中学校	平成26年7月11日 (1日間) ※台風のため3日間の予定を変更	2年生4名
7	初任者研修	大分市大南地区初任者研修会	平成26年8月8日	15名
8	教科研修	大分市小学校社会科教育研究会	平成26年8月11日	30名
9	教科研修	玖珠町中学校社会科教育研究会	平成26年8月19日	8名
10	職業体験学習	大分市立城南中学校	平成26年8月21日～8月22日 (2日間)	2年生4名
11	職業体験学習	大分市立判田中学校	平成26年9月3日～9月4日 (2日間)	2年生4名
12	職業体験学習	大分市立滝尾中学校	平成26年9月9日～9月10日 (2日間)	2年生4名
13	職業体験学習	大分市立戸次中学校	平成26年9月10日～9月11日 (2日間)	2年生4名
14	職業体験学習	大分市立植田東中学校	平成26年9月18日～9月19日 (2日間)	2年生2名
15	地域連携 (史跡ウォークラリー)	大分市立判田小学校	平成26年10月9日	6年生134名
16	展示見学・体験学習	豊後大野市清川公民館	平成26年11月1日	12名
17	初任者研修	小学校新採用教員研修 ※教育センターにて実施	平成26年11月13日	70名
18	初任者研修	特別支援学級新採用教員研修 ※教育センターにて実施	平成26年11月13日	20名
19	展示見学・体験学習	佐伯市立名護屋・蒲江小学校	平成26年12月2日	20名

D 歴史学習体験キット

社会科の授業における補助教材として、旧石器時代から近世まで各時代ごとの石器や土器・陶磁器を一つの箱にまとめ、貸し出しを行っている。平成26年度は高校への貸し出しが1件あった。

第7表 歴史学習体験キット貸出一覧

	学校名	使用期間	利用学年	児童・生徒数
1	大分市立東大分小学校	平成26年4月11日～平成26年5月11日	6年生(3クラス)	97名
2	大分県立中津南高等学校	平成26年4月20日	2年生(1クラス)	37名
3	大分市立戸次中学校	平成26年5月2日～平成26年5月21日	1年生(4クラス)	120名
4	大分市立明野中学校	平成26年8月5日～平成26年9月1日	1・2年生	273名
5	大分市立大在中学校	平成26年9月10日～平成26年9月11日	1年生(6クラス)	177名
6	大分市立野津原中学校	平成26年10月10日	1年生(1クラス)	27名
7	大分市立王子中学校	平成26年10月7日～平成26年11月6日	1年生(6クラス)	177名



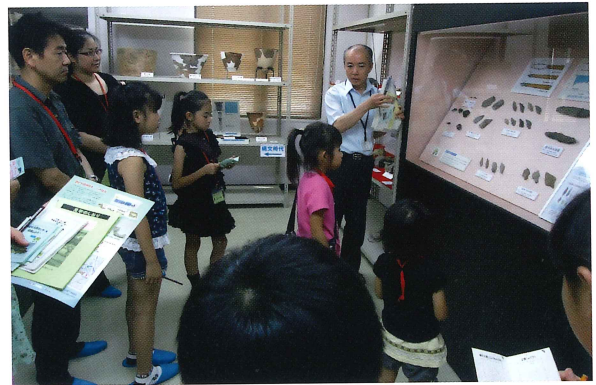
出前授業（施文体験） 佐伯市立上野小学校



出前授業（土器に触れる） 別府市立亀川小学校



バックヤードツアー夏（施設内の移動）



バックヤードツアー夏（展示遺物の説明）



考古学講座（四日市遺跡第13次調査）



展示見学（黒曜石の紙切り体験） 清川公民館



職業体験（発掘体験） 大分市立城東中学校



職業体験（拓本体験） 大分県立豊府中学校

E 収蔵資料の貸出

昨年度の約 2.5 倍を数える 25 件の資料貸し出し・写真等の提供を行った。理由としては、NHK 大河ドラマの題材として大分県中津市に本拠地を置いた黒田勘兵衛や戦国時代が取り上げられたことにより、関連事業などが多く企画されたことが挙げられる。また、中世大友府内町跡出土遺物については、近年、県内市町村が大友氏時代の南蛮文化の発信に力を入れていることなどから昨年度に引き続き貸し出し希望が多く、今年度は特にメディアからの資料提供依頼が多くあった。

第 8 表 収蔵資料の貸し出し一覧

	貸出先	使用目的	主な貸出物	期間
1	大分県立歴史博物館	企画展での展示	尾畑遺跡、原田遺跡他出土遺物	平成26年4月15日 ～平成26年7月11日
2	佐伯市教育委員会	常設展示パネル	【写真】森の木遺跡	平成26年4月17日
3	国東市歴史体験学習館	企画展での展示	安岐城出土陶磁器他	平成26年6月3日 ～平成26年10月10日
4	九州歴史資料館	企画展展示パネル	【図面】長岩城、高森城他縄張り図	平成26年7月25日
5	佐伯市教育委員会	常設展示パネル	【写真】曳地館	平成26年8月5日
6	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	企画展での展示	中世大友府内町跡出土コンタツ他	平成26年8月 ～平成26年11月
7	中津市教育委員会	企画展での展示	安岐城、中世大友府内町跡出土陶磁器他	平成26年9月5日 ～平成26年12月25日
8	カトリック大阪大司教区	企画展での展示	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ他	平成26年9月5日
9	大分県立歴史博物館	特集展での展示	安岐城、中世大友府内町跡出土遺物	平成26年9月11日 ～平成26年12月19日
10	株式会社思文閣出版	書籍へ掲載	【写真・図面】中世大友府内町跡出土遺物	平成26年9月19日
11	大分県立歴史博物館	特別展での展示	中世大友府内町跡出土陶磁器	平成26年10月7日 ～平成26年12月19日
12	大分市教育委員会	特別展での展示	龍頭遺跡出土編物製品他	平成26年10月10日 ～平成26年11月24日
13	愛媛県歴史文化博物館	特別展での展示	古城山遺跡、エゴノクチ遺跡他出土遺物	平成26年10月11日 ～平成26年12月7日
14	株式会社現代書館	書籍へ掲載	【写真】府内城出土瓦	平成26年11月7日
15	株式会社かみゆ	書籍へ掲載	【図面】長岩城縄張り図	平成26年12月25日
16	中津市教育委員会	企画展展示パネル	【写真】伊藤田中遺跡	平成27年1月28日
17	九州国立博物館	特別展での展示	中世大友府内町跡出土遺物	平成27年2月2日 ～平成27年6月30日
18	株式会社溪水社	書籍へ掲載	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ他	平成27年2月3日
19	中津市教育委員会	遺跡解説看板へ掲載	【写真】佐知遺跡、上ノ原横穴墓群他	平成27年2月24日
20	おおいのキリンタン・南蛮文化遺産活用・発信プロジェクト in 大分市実行委員会	DVD作成	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ他	平成27年2月26日
21	朝日新聞出版	書籍へ掲載	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ	平成27年2月26日
22	大分市教育委員会	書籍へ掲載	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ他	平成27年3月2日
23	NHK大阪放送局	番組内で使用	【写真】中世大友府内町跡出土メダイ他	平成27年3月2日
24	別府市教育委員会	企画展での展示	照湯遺跡出土遺物	平成27年3月3日 ～平成27年4月14日
25	別府大学教授 田中裕介	調査報告会で展覧	立野古墳出土埴輪	平成27年3月13日 ～平成27年3月17日

F 資料調査

収蔵する埋蔵文化財の資料公開の一環として資料調査を受け入れており、本年度は 18 件あった。

第9表 資料調査受け入れ一覧

	調査者	使用目的	主な調査物	期間
1	公益財団法人根津美術館	資料調査	中世大友府内町跡出土遺物	平成26年4月25日
2	九州国立博物館	資料調査	中世大友府内町跡出土遺物	平成26年5月7日
3	中津市教育委員会職員	研究	津留遺跡出土石器	平成26年5月12日
4	公益財団法人五島美術館	資料調査	中世大友府内町跡出土遺物	平成26年5月26日
5	国東町教育委員会	資料調査	安岐城出土遺物	平成26年5月29日
6	中津市教育委員会	資料調査	安岐城出土遺物他	平成26年6月19日
7	宇土市教育委員会職員	研究	北ノ後遺跡、玉沢地区条里跡、毛井遺跡、東田室遺跡他出土製塩土器	平成26年6月23日
8	国立歴史民俗博物館職員	研究	飛山横穴、野村台遺跡他出土土師器	平成26年7月10日
9	愛媛県歴史文化博物館	資料調査	古城山遺跡出土縄文土器他	平成26年7月
10	九州大学大学院生	研究	手崎遺跡出土縄文土器	平成26年7月29日
11	中津市教育委員会職員	研究	津留遺跡出土石器	平成26年8月18日
12	熊本大学学生	研究	古城得遺跡、岩金遺跡他出土製塩土器	平成26年11月10・11日
13	中津市教育委員会職員	研究	津留遺跡出土石器	平成26年12月15日
14	別府大学学生	研究	浜遺跡、真那井中原遺跡出土遺物	平成26年12月24日
15	別府大学学生	研究	中世大友府内町跡出土遺物	平成26年12月24日
16	奈良女子大学職員	研究	勘助野地遺跡出土玉類	平成27年1月23日
17	京都大学大学院生	研究	横手遺跡群森本遺跡出土遺物	平成27年2月13日
18	愛媛大学職員	研究	飯田二反田遺跡出土縄文土器	平成27年3月24日

G 講師派遣

様々な事業所・団体からの依頼に伴い、講座のなどの講師として当センター職員を派遣している。平成26年度は、県外を含む5件の派遣を行った。

第10表 講師派遣一覧

	講座名	日付	講師	開催場所	受講者数
1	大分の縄文時代と暮らしの道具	平成26年7月27日	坂本嘉弘	臼杵市中央公民館	38名
2	タイムトリップひた Vol.12「慈眼山遺跡と日田の中世都市」	平成26年8月17日	坂本嘉弘	日田市中央公民館	70名
3	西南戦争前後の火箭	平成26年11月9日	高橋信武	熊本県玉東町中央公民館	200名
4	玖珠町立八幡小学校発掘調査現場見学	平成26年11月13日	松本康弘	玖珠町四日市遺跡	15名
5	西南戦争関連遺跡を理解する	平成27年2月5日	高橋信武	宮崎県延岡市内藤記念館	30名

第2章 平成26年度の大分県埋蔵文化財保護行政の現状

(1) 発掘調査の動向

大分県内で平成26年度に届出等のあった件数は876件である。このうち、文化財保護法(以下、法という)第92条(学術研究)による届出は2件、法93条の届出(民間開発)は727件、法94条の通知は105件であった。平成25年度の届出等の件数と比較すると、法93条は758件から31件の減、法94条の通知は98件から7件の増である。民間開発はここ数年増加傾向からほぼ横ばいであり、要因として消費税増税を控えての住宅売買や、太陽光発電施設に伴う開発事業が考えられる。

上記の届出等に対し、発掘調査を通知した件数は111件、工事立会は177件、慎重工事は503件、その他41件である。開発事業に伴う法99条に基づく発掘調査の通知は40件で、平成25年度の55件から15件の減である。また、重要遺跡の範囲確認等の保存目的調査が4件、整備目的調査が3件である。また、大分県教育庁埋蔵文化財センターでは、古代・中世石造遺物の分布調査を実施しており、その成果として報告書『大分の中世石造物』第3集 分布図・地名表編(下)を刊行した。

(2) 埋蔵文化財の普及・啓発及び文化財指定

埋蔵文化財の普及・啓発事業として、発掘調査成果を一般に公開する現地説明会や、博物館等での展示会やシンポジウム等が開催されている。大分県教育庁埋蔵文化財センターでは、大分県立先哲史料館展示室において企画展『大分の歴史を掘り続けて10年～埋蔵文化財センターの歩み～』を開催した他、ミニ企画展として大分県庁舎別館、大分県立社会教育総合センターで「いにしえ人の知恵と技術で生み出された道具たち」、大分県立図書館で「器(うつわ)の移り変わり」を行った。

埋蔵文化財や石造文化財等の文化財指定としては平成27年2月10日付で県の史跡である中津市の長岩城跡(平成23年3月29日指定)の一部が追加指定された。

第11表 文化財保護法93条・94条届出等の市町村別内訳

市町村名	合計	法93条					法94条				
		小計	発掘調査	工事立会	慎重工事	その他	小計	発掘調査	工事立会	慎重工事	その他
大分市	331	310	22	75	209	4	21	1	9	11	0
別府市	22	22	6	0	16	0	0	0	0	0	0
中津市	216	191	18	2	153	18	25	7	4	11	3
日田市	78	56	14	1	40	1	22	6	3	6	7
佐伯市	13	11	1	7	3	0	2	0	2	0	0
臼杵市	17	13	2	10	0	1	4	0	4	0	0
津久見市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
竹田市	13	10	6	4	0	0	3	2	1	0	0
豊後高田市	9	9	0	3	6	0	0	0	0	0	0
杵築市	28	17	5	6	1	5	11	6	4	0	1
宇佐市	66	60	9	22	28	1	6	1	3	2	0
豊後大野市	22	15	0	5	10	0	7	0	6	1	0
由布市	8	7	1	1	5	0	1	1	0	0	0
国東市	5	4	0	4	0	0	1	1	0	0	0
姫島村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日出町	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0
九重町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玖珠町	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
合計	832	727	85	140	472	30	105	26	37	31	11

第3章 所蔵資料集成・研究報告

(1) 中世大友府内町遺跡発掘調査報告 — 補遺2 —

1. はじめに

大分駅周辺総合整備事業に伴う中世大友府内町跡の発掘調査は、1996年から大分市教育委員会、1999年から大分県教育委員会が実施し、2016年3月末までに調査次数は110を越え、調査面積も7万平方メートルを越える。発掘調査と並行して報告書の刊行も進んでおり、大分市教委が「大友府内」、県教委が「豊後府内」のシリーズで、双方とも20集に近い。このように発掘調査と報告書刊行が慌ただしく進行しているため、報告漏れや誤報、不十分な報告なども存在する。そこでこれらをできるだけ補うため補遺として報告する。

2. 出土遺物

1は、万寿寺跡の南西隅の調査区である第35次調査出土である。口縁部を欠く龍泉窯系の青磁香炉で、色調は緑系で、内面は胴部下位から見込み部、外面は高台の畳み付きから内側は露胎であるが、後者には透明釉が掛かる。また、高台中央部は下向きに尖る。高台の径は4.0cmで、飾りとなった脚は四カ所に付く。

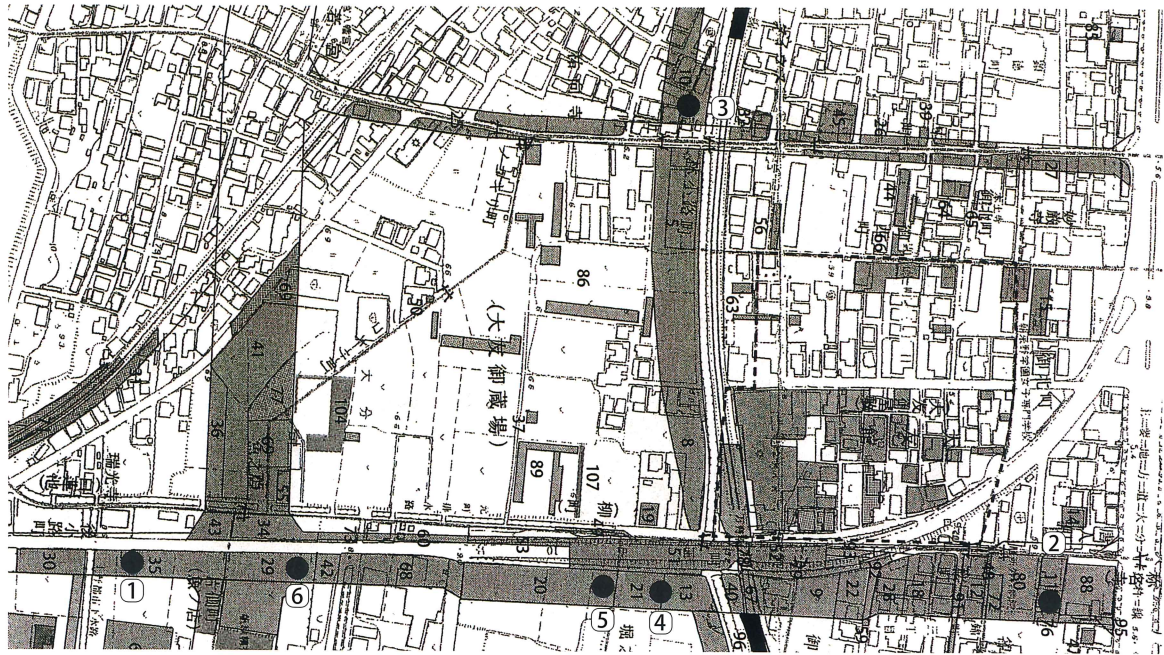
2は、大友館の北東部にある称名寺を囲む15世紀中葉から後葉の大型の溝にあたる第11次調査SK051出土である。アズキ色をした赤間産の硯で、長さは欠けているが9.0cm以上はあり、幅は3.9cm、厚さ1.7cmである。表の縁は欠けているが、裏面は原形が保たれており、中央部が抉られている。なお豊後府内では、14世紀後半から15世紀にかけて万寿寺の西側のノコギリ町で赤間石を素材とした硯製作の痕跡が確認されている。

3は、第10次調査Ⅱ区出土で、植物製品が残る遺構は北側に隣接するキリスト教会施設である墓地と、府内から西側郊外に抜ける街路を区切る溝がある。この櫛はほぼ完全形で、幅8.1cm、長さ4.4cm、厚さ1.0cmで、両側を除くと25本の櫛歯が削りだされており、梳櫛、又は飾り櫛と考える。

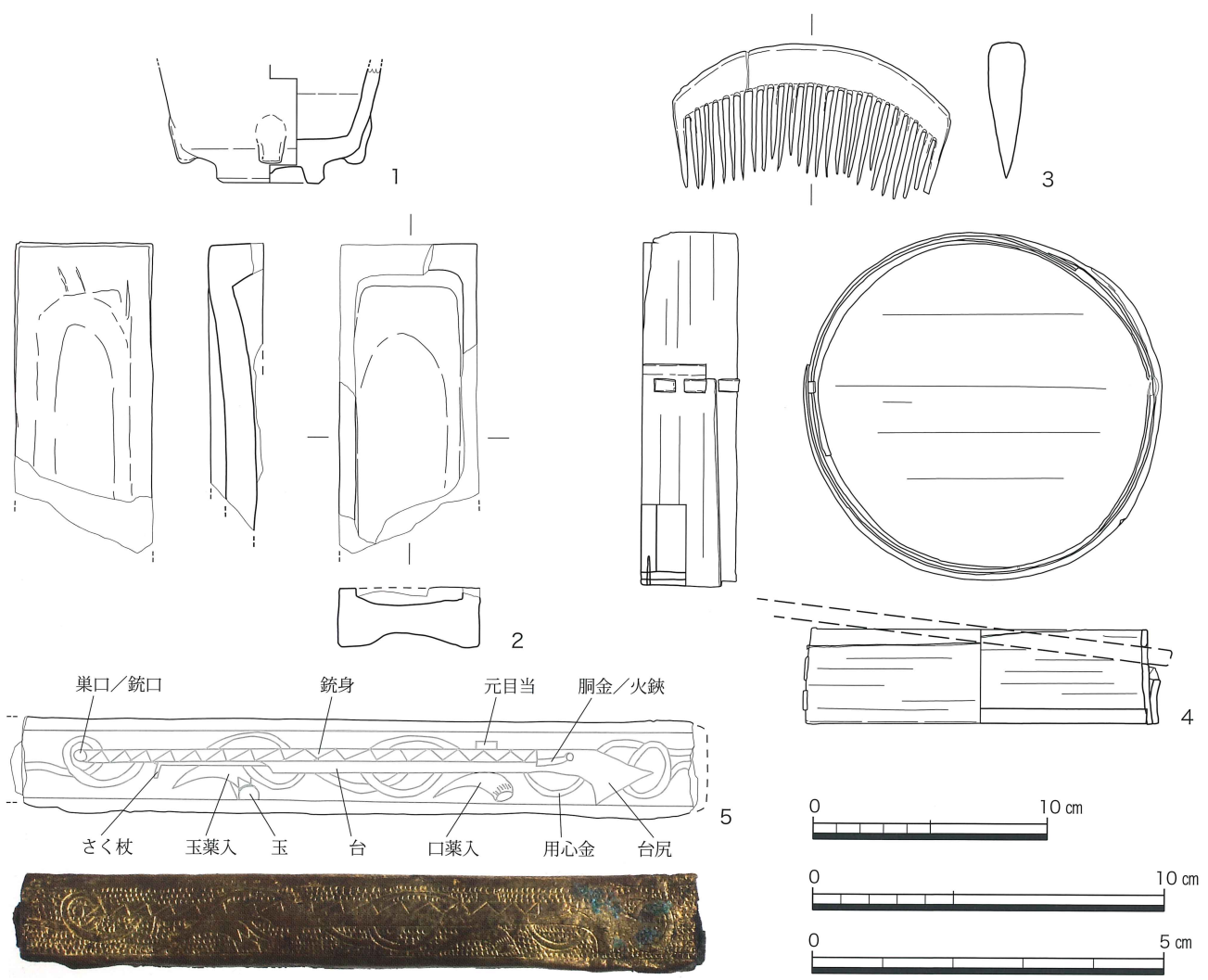
4は、曲物の杓子である。第21次調査区の16世紀後葉の井戸からの出土である。底は径14.0cm、厚さ0.6cmの正目板を正円形に切り出し、厚さ1mm程度、幅3.5～4.0cmの薄い杉材を2周回し、最後に桜の皮でつないでいる。また体部と底部は竹釘を四カ所に打ち、両者をつないでいる。また、側面には0.8cmの孔があげられており、柄を差し込んでいた痕跡が観察されることから、大型の杓子と考える。

5は、万寿寺の北側境の濠である第20次調査C地区からの出土である。この濠は1580年には埋まっていたと考えられ、すでに「豊後府内7」で写真のみで報告を行っているが実測図を欠くため再報告する。

この資料は、長さ9.5cm、幅1.3cmの真鍮製の小柄に火縄銃の図柄を刻み込んだものである。火縄銃の長さは8.2cmで、台に鋸歯文で飾られた銃身が付けられ、その上には元目当が表現されている。銃身先端は銃口を表現したためか円形になっており、台尻近くは火鉢み又は胴金が表されている。その下に引金はないが、それを囲む用心金は理解できる。また、台の先端部にはさく杖も見ることができる。さらに、その横には角状の文様が二カ所あり、先端に近い方には鉛玉の表現があり玉薬を示すものと考えられ、用心金に近い方は着火用の口薬入れと想定される。こうした火縄銃図柄の背景には鳶状の文様が絡み付いており、それらの文様を鮮明にする効果のためか、細かい鱗状叩文が1.0cm間隔で刻まれた上と下の平行線の間を埋めている。



第1図 第3章掲載調査区（中世大友府内町跡）位置図（右が北、白数字は掲載遺物番号）



第2図 中世大友府内町跡出土遺物（1・4：S=1/3 2・3：S=1/2 5：S=1/1）

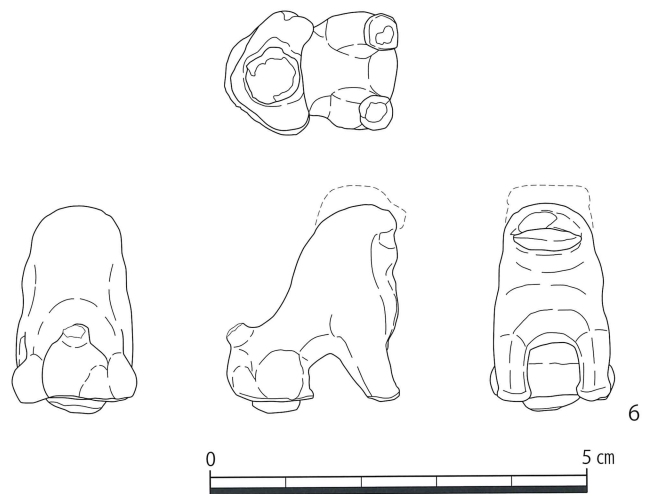
(2) 中世大友府内町跡第 29 次調査出土獅子形銅製品について

1. 獅子形銅製品

中世大友府内町跡第 29 次調査で出土した獅子形銅製品（以下、製品とする）について報告する。製品は、平成 15 年度に行われた 29 次調査で出土したものの、諸般の事情により平成 21 年刊行の報告書『豊後府内 12』には収載されなかった。

製品は、高さ 2.73cm、長さ 2.3cm、幅 1.65cm、重さ 16.9 g を測る非常に小振りな製品である。全体的に摩滅が著しいため表面の表現などに不明な点が多いが、前脚を踏みしめ後脚を折り曲げて座る姿は狛犬を連想させる。頭部上面は丸みを帯びており、耳の表現などは確認出来ない。顔（頭部正面）についても判然としないが、中央部にわずかに凹む部分があり、おそらく口であろう。目の表現は確認できない。また、凹み部分を口とするならば、目を含む頭部上半に対して現状ではスペースが少なすぎるように見受けられることから、頭部上半が欠損している可能性が示唆される。尻尾も約 0.2cm 外側に向かって延びた状態で欠損している。

以上のような獅子本体部分に加えて、臀部下に直径 0.7cm、高さ 0.15cm の突出部を持つ点が同製品の最も特徴的な点である。突出部は一方所で、前脚と後脚を水平にした場合、台座に正置することは難しく、置物以外の用途が想定されよう。



第 3 図 獅子形銅製品 (S=1/1)

2. 第 29 次調査の概要

第 29 次調査区は大分県大分市元町に所在しており、一般国道 10 号古国府拡幅事業に伴い 2003 年 4 月から 2004 年 3 月まで本調査が実施された。当該調査区は、1987 年に大分市史編纂委員会が作成した「戦国時代の府内復元図」では、万寿寺の西側縁辺部に相当する地域である。

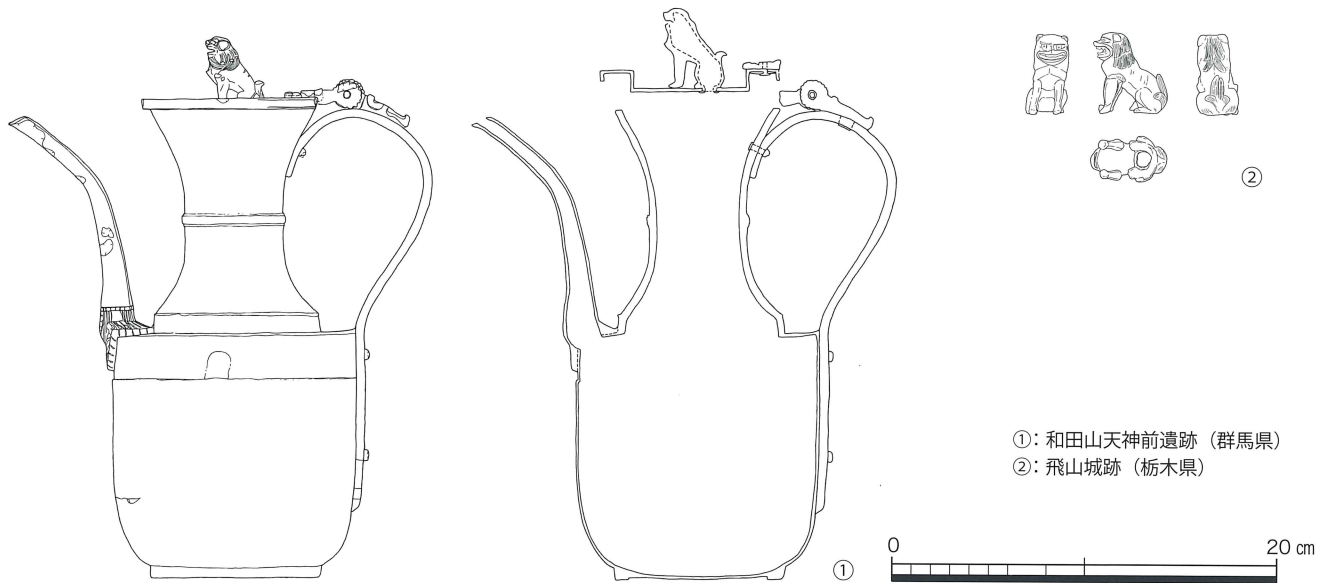
調査では、当該調査区が 3 段階の変遷を経たことがわかった。第 1 段階は万寿寺創建期にあたる 14 世紀初頭～15 世紀前葉。調査区北半東側にある程度まとまった数の土坑墓、南端には井戸と廃棄土坑が検出されている。第 2 段階は万寿寺隆盛期の 15 世紀後葉～16 世紀初頭。調査区北半東側に南北方向の溝とその西側に廃棄土坑、南半に東西方向の溝数条と廃棄土坑が検出されている。第 3 段階は町屋化がうかがえる 16 世紀末葉。調査区中央に井戸と廃棄土坑、整地に伴うとみられる浅い土坑が検出されている。

製品は、これらの遺構群の上層にあたる包含層から出土している。

3. 獅子形銅製品の類似例

製品の類似例として、信貴形水瓶の蓋の鈕が挙げられる。愛媛県や広島県の寺社において伝世品が伝えられる他、発掘出土品も数例ある。一つ目は、群馬県和田山天神前遺跡出土の製品で、信貴形水瓶がほぼ完全な状態で出土しており、鈕の獅子（高麗犬）は高さ 4.1cm、長さ 3.1cm を測る。注目点としては、獅子の臀部下の蓋との接続箇所が開けられた径約 0.4cm の孔である。実測図によると、獅子の体部は空洞になっており口部まで続く。出土遺構は 94 号土坑で、平面形は 3.55 × 2.5m を測る長方形を呈しており、さらに底

部に2基の径65cm前後の掘方を有し、そのうちのひとつから出土している。埋納状態と考えられる。上層では焼けた壁土や宋銭・無文銭が出土している。二つ目は、栃木県宇都宮市飛山城跡出土の製品で、獅子形銅製品のみ出土だが、信貴形水瓶の鈕として報告されている。獅子は高さ4.1～4.2cm、長さ3.9cmを測る。こちらも、臀部下に径約0.7cmの孔を持つが、体部が空洞であるかは不明である。出土構はST13で、平面形は6.2×5.0mを測る長方形を呈する。床面から茶臼、瀬戸折縁深皿など多くの遺物が出土しており、獅子鈕は茶臼の直上から出している。



第4図 遺跡出土の信貴形水瓶 (S=1/4)

4. 結び

製品と上記二例とを比較すると、大きく異なるのが法量と臀部下の形状である。

信貴形水瓶の全高は28cm前後を測り、本体と獅子鈕との比率もおおむね同等であることから考えると、製品の法量が現存でこれらの7割程度しかないということは、セットとなる水瓶も小型品となることが想定できる。しかし、信貴形水瓶の小型品についての報告例はない。臀部下については、蓋と接合する用途のみを考えた場合、凹形でも凸形でも問題なからうが、①の和田山天神前遺跡出土品のように体部が空洞となるのが信貴形水瓶の通例であるならば、製品はこれに当てはまらない。

以上のことから、製品が信貴形水瓶の獅子鈕であると断定することは現状ではいささか困難である。しかし、仏具として信貴形水瓶の他に柄香炉にも獅子形の装飾が用いられること、出土地が万寿寺の寺域内であることを考慮すると、鈕もしくは装飾として小型の仏具などに取り付けられていたと言うことはできよう。なお、著しい磨滅と出土状況を考慮すると廃棄直前まで製品として機能していたとは考えられない。

《参考文献》

宇都宮市教育委員会 1999 『飛山城跡Ⅲ』宇都宮市埋蔵文化財報告書第44集

群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 日本鉄道建設公団 1999 『和田山天神前遺跡』北陸新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集

大分県教育庁埋蔵文化財センター 2009 『豊後府内12』大分県教育庁埋蔵文化財センター発掘調査報告書第41集

加島勝 2011 『日本の美術』No.540

写真図版



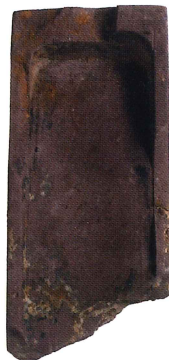
1



3



4



2



6

大分県教育庁埋蔵文化財センター年報 2

平成28年(2016)3月31日 発行

編集・発行者

〒870-1113 大分市大字中判田字ビワノ門1977番地
TEL 097-597-5675

印刷 株式会社ビイング

〒870-0028 大分市新町10-18 Mビル2F
TEL 097-538-4123